

ぐんま “まちづくり” シンポジウム

群馬県 県土整備部 都市計画課

令和8年7月15日、群馬会館にて「ぐんま“まちづくり”シンポジウム」が開催されました。今年度は「都市の新しい捉え方と魅力創出のまちづくり」をテーマに、群馬県まちづくり功労者表彰の表彰式や桐生市による事例発表、LIFULL HOME'S総研所長の島原万丈氏による特別講演が行われました。

第1部 表彰式

群馬県では、魅力あるまちづくりの推進に努め、顕著な功績のあった民間の団体や個人、市町村を表彰しており、昭和60年から実施している表彰は今回で41回目を迎えました。

今年度は、歴史ある野球資産と著名人の力を活かし、民間主導の柔軟な展開と持続的な仕組みで、地域価値を高める先進的な取組みを評価し、「球都桐生プロジェクト推進協議会」を表彰しました。

第2部 事例発表

続いて自治体の事例発表として、第1部で表彰となった「球都桐生プロジェクト」の取組について、桐生市市民生活部スポーツ・文化振興課より「～野球を地域活性化の一打に～球都桐生プロジェクト」と題し発表いただきました。

第1部での表彰にもつながった新桐生駅の球場化装飾や歴史的資産の保存・継承といった取組（「桐生“の”野球」）や、野球教室や東京六大学野球のオールスターゲームといったイベント（「桐生“で”野球」）について発表され、野球の盛んなまち桐生市のポテンシャルを感じる内容でした。

本号では球都桐生の取組について、別途記事の寄稿をいただいておりますので、そちらも是非ご覧ください。



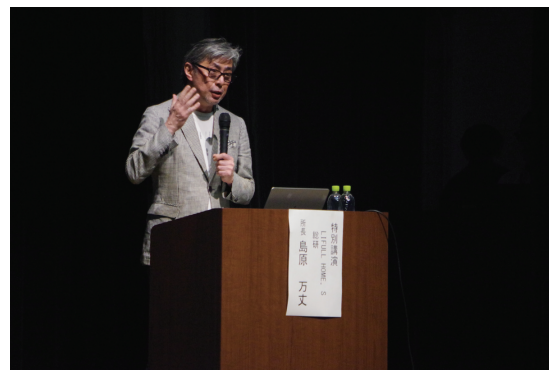
第2部 事例発表

第3部 特別講演

最後に特別講演として、LIFULL HOME'S総研所長の島原万丈氏にご登壇いただき、「センシユアス・シティ都市の魅力測る新しい評価指標」と題し、都市を体験する人々の幸福度に主眼を置いた、人々がまちに対して「なんかいい」と漠然と感じる魅力とその価値を数値化し、客観的数値として広く社会に共有できる新しい都市評価指標「センシユアス・シティ調査」についてご講演いただきました。

2015年の調査から10年が経過し、都市政策の在り方もタワマン型再開発の行き詰まりやウォークアブルなどの公共空間重視といった変化が生じています。これらを踏まえ昨年度、10年ぶりに最新の調査が実施され、「馴染みの飲み屋で常連客と盛り上がった」、「公園や水辺で緑や水に直接ふれた」、「デートをした」など、まちを体験することで得られる主観的要素を回答者の申告によって集計し、都市の感覚的魅力を評価しました。

総合ランキングは1位が東京都千代田区・中央区、2位に横浜市西区、3位に東京都豊島区という結果であり、前回調査のランキングからの変化がみられる結果となりました（横浜市西区、東京都豊島区は前回TOP20圏外）。島原氏はこの結果をコロナ禍によるテレワークやオンライン活動の定着によるものと分析し、センシユアスな経験により蓄積された豊かなナラティブ（主観的な視点や感情に基づくストーリー）によって都市生活の幸福度を高めていくことが重要と結びました。



第3部 特別講演の様子（島原 万丈氏）

